



Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録

- [Cisco UCS ドメインの登録 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシー解決 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録 \(3 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシー解決の設定 \(5 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Manager での Cisco UCS Central 登録プロパティの設定 \(7 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメインの登録解除 \(9 ページ\)](#)

Cisco UCS ドメインの登録

データセンター内の Cisco UCS ドメインの一部またはすべてを Cisco UCS Central が管理できるよう設定できます。

Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを管理させる場合は、そのドメインを登録する必要があります。登録するときには、Cisco UCS Central と Cisco UCS Manager で管理するポリシーとその他の設定の種類を選択する必要があります。Cisco UCS Central は、登録されているすべての Cisco UCS ドメインについて、同じ種類のポリシーと設定を管理できます。また、登録されている Cisco UCS ドメインごとに異なる設定を持つように選択することもできます。

Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録する前に以下のことを行います。

- Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central の両方において NTP サーバと正しいタイムゾーンを設定し、それらが同期していることを確認します。Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central の日時が同期していないと、登録に失敗する可能性があります。
- Cisco UCS Central のホスト名または IP アドレスの入手
- Cisco UCS Central を導入したときに設定した共有秘密を入手します。

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシー解決

Cisco UCS Central に登録する各 Cisco UCS ドメインに対して、特定のポリシーや設定を管理するアプリケーションを選択できます。このポリシー解決は、同じ Cisco UCS Central に登録するすべての Cisco UCS ドメインで同じである必要はありません。



(注) Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central から登録解除すると、開かれているセッションはすべて終了します。

これらのポリシーおよび設定を解決するには、次のオプションを使用します。

- [Local] : ポリシーまたは設定は、Cisco UCS Manager によって決定および管理されます。
- [Global] : ポリシーまたは設定は、Cisco UCS Central によって決定および管理されます。

次の表に示すポリシーと設定は、Cisco UCS Manager または Cisco UCS Central のどちらで管理するかを選択できます。

名前	説明
[Infrastructure & Catalog Firmware]	機能カタログとインフラストラクチャファームウェアポリシーを、ローカルで定義するかまたは Cisco UCS Central から取得するかを決定します。
[Time Zone Management]	日付と時刻を、ローカルで定義するかまたは Cisco UCS Central から取得するかを決定します。
[Communication Services]	HTTP、CIM XML、Telnet、SNMP、Web セッション制限、管理インターフェイスモニタリングポリシー設定を、ローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
[Global Fault Policy]	グローバル障害ポリシーをローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
[User Management]	認証およびネイティブドメイン、LDAP、RADIUS、TACACS+、トラストポイント、ロケールおよびユーザーロールを、ローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
[DNS Management]	DNS サーバをローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
[Backup & Export Policies]	Full State バックアップポリシーおよび All Configuration エクスポートポリシーを、ローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。

名前	説明
[Monitoring]	Call Home、Syslog、TFTP Core Exporter 設定を、ローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
[SEL Policy]	管理対象エンドポイントをローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
[Power Management]	電源管理をローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
[Power Supply Unit]	電源モジュールをローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
[Port Configuration]	ポート設定をローカルと Cisco UCS Central のどちらで定義するかを指定します。

Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録

始める前に

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central の両方において NTP サーバと正しいタイムゾーンを設定し、それらが同期していることを確認します。Cisco UCS ドメインと Cisco UCS Central の日時が同期していないと、登録に失敗する可能性があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A/system # create control-ep policy <i>ucs-central</i>	Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に登録するために必要なポリシーを作成します。 <i>ucs-central</i> には ホスト名または IP アドレス。を使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) IPv4 や IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定する必要があります。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていない、または DNS 管理がローカルに設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が [グローバル (global)] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。
ステップ 3	Shared Secret for Registration: <i>shared-secret</i>	Cisco UCS Central を導入したときに設定された共有秘密 (またはパスワード) を入力します。
ステップ 4	UCS-A/system/control-ep# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に IP アドレス 209.165.200.233 で登録し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # create control-ep policy 209.165.200.233
Shared Secret for Registration: S3cretW0rd!
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```

次のタスク

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシー解決を設定します。

Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間のポリシー解決の設定

始める前に

ポリシー解決を設定する前に、Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを登録する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /system # scope control-ep policy	control-ep ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A/system/control-ep # set backup-policy-ctrl source {local global}	Full State バックアップポリシーおよび All Configuration エクスポートポリシーを、ローカルまたは Cisco UCS Central のどちらかで定義するかを決定します。
ステップ 4	UCS-A/system/control-ep # set communication-policy-ctrl source {local global}	HTTP、CIM XML、Telnet、SNMP、Web セッション制限、管理インターフェイス モニタリング ポリシー設定を、ローカルまたは Cisco UCS Central のどちらかで定義するかを決定します。
ステップ 5	UCS-A/system/control-ep # set datetime-policy-ctrl source {local global}	日付と時刻を、ローカルで定義するかまたは Cisco UCS Central から取得するかを決定します。
ステップ 6	UCS-A/system/control-ep # set dns-policy-ctrl source {local global}	DNS サーバをローカルまたは Cisco UCS Central のどちらかで定義するかを決定します。
ステップ 7	UCS-A/system/control-ep # set fault-policy-ctrl source {local global}	グローバル障害ポリシーをローカルまたは Cisco UCS Central のどちらかで定義するかを決定します。
ステップ 8	UCS-A/system/control-ep # set infra-pack-ctrl source {local global}	機能カタログとインフラストラクチャファームウェアポリシーを、ローカルで定義するかまたは Cisco UCS Central から取得するかを決定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	UCS-A/system/control-ep # set mep-policy-ctrl source {local global}	管理対象エンドポイントをローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
ステップ 10	UCS-A/system/control-ep # set monitoring-policy-ctrl source {local global}	Call Home、Syslog、TFTP Core Exporter 設定を、ローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
ステップ 11	UCS-A/system/control-ep # set powermgmt-policy-ctrl source {local global}	電源管理をローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
ステップ 12	UCS-A/system/control-ep # set psu-policy-ctrl source {local global}	電源モジュールをローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
ステップ 13	UCS-A/system/control-ep # set security-policy-ctrl source {local global}	認証およびネイティブ ドメイン、LDAP、RADIUS、TACACS+、トラストポイント、ロケールおよびユーザーロールを、ローカルまたは Cisco UCS Central のどちらで定義するかを決定します。
ステップ 14	UCS-A/system/control-ep # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、Cisco UCS Central に登録されている Cisco UCS ドメインに対するポリシー解決を設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope control-ep policy
UCS-A /system/control-ep* # set backup-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set communication-policy-ctrl source local
UCS-A /system/control-ep* # set datetime-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set dns-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set fault-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set infra-pack-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set mep-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set monitoring-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set powermgmt-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # set psu-policy-ctrl source local
UCS-A /system/control-ep* # set security-policy-ctrl source global
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```

Cisco UCS Manager での Cisco UCS Central 登録プロパティの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /system # scope control-ep policy	登録ポリシーを入力します。
ステップ 3	UCS-A /system/control-ep # set cleanupmode { }	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Localize Global] : Cisco UCS ドメインを登録解除すると、その Cisco UCS ドメイン のすべてのグローバルポリシーが Cisco UCS Manager 向けにローカライズされます。ポリシーは Cisco UCS ドメインにとどまり、ポリシーの所有権は Cisco UCS Manager に対してローカルになり、Cisco UCS Manager の管理ユーザが変更を実施できます。 (注) Cisco UCS Central に Cisco UCS ドメインを再登録すると、Cisco UCS Central と Cisco UCS Manager の両方にポリシーが存在するため、ポリシーの競合が発生することがあります。グローバル サービス プロファイルを作成して関連付ける前に、ローカル ポリシーを削除するか、ローカル ポリシーをグローバルに設定してください。 • [Deep Remove Global] : このオプションは、慎重に検討した後でのみ使用してください。Cisco UCS ドメインの登録を解除すると、その Cisco UCS ドメイン 内のすべてのグロー

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>バル ポリシーが削除されます。グローバル サービス プロファイルがある場合、それらは Cisco UCS Manager のローカル デフォルト ポリシーを参照するようになり、次のいずれかが発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのローカルポリシーが存在する場合は、サーバがリブートします。 デフォルトのローカルポリシーがない場合は、設定エラーによってサービス プロファイルの関連付けに失敗します。 <p>(注) [Deep Remove Global] クリーンアップ モードでは、Cisco UCS Central からの登録解除時にグローバル VSAN と VLAN は削除されません。必要に応じて、これらを手動で削除する必要があります。</p>
ステップ 4	UCS-A /system/control-ep # set suspendstate on	<p>一時停止状態を設定します。自動的に設定されると、Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central から一時的に削除され、すべてのグローバルポリシーはローカルの同等のものに戻ります。すべてのサービス プロファイルは、現在の ID が維持します。ただし、グローバルプールは表示されなくなり、新しいサービス プロファイルからアクセスできません。一時停止状態をオフにするには、状況を認識する必要があります。</p>
ステップ 5	UCS-A /system/control-ep # set ackstate acked	<p>Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central の間に不一致が存在することと、ユーザが引き続き Cisco UCS ドメインを Cisco UCS Central に再接続しようとしていることを確認します。これは自動的に一次停止状態をオフにします。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A /system/control-ep # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、Cisco UCS Central 登録クリーンアップ モードを `deep-remove-global` に変更して、トランザクションをコミットする方法を示しています。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope control-ep policy
UCS-A /system/control-ep* # set cleanupmode deep-remove-global
UCS-A /system/control-ep* # commit-buffer
UCS-A /system/control-ep #
```

Cisco UCS Central からの Cisco UCS ドメインの登録解除

Cisco UCS ドメイン から Cisco UCS Central を登録解除すると、それ以降 Cisco UCS Manager はグローバル ポリシーの更新を受信しません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /system # delete control-ep policy	ポリシーを削除し、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメイン を登録解除します。
ステップ 3	UCS-A /system # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメイン の登録を解除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # delete control-ep policy
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #
```

